

【社会】 <中学校 第1学年>

1 結果のポイント

- 「地理的分野」については、世界の地域構成の中で日本が属している州区分の名称と位置についての理解をみる問題や、日本各都市の気候の特色を雨温図から読み取り、その都市の位置を考え判断する力をみる問題の正答率は80%を上回っている。他方、地球上の位置関係を示すために必要な緯度や経度についての理解をみる問題や、時差ができる基本的な仕組みを活用し、現地時間を計算して求める力をみる問題の正答率はいずれも60%を下回っており、読図をもとに地理的な位置関係を把握しながら的確に判断する力が十分身に付いているとはいえない。
- 「歴史的分野」については、弥生時代の集落の様子や使われていた金属器についての理解や、6世紀から12世紀までの年表から、代表的な人物名についての理解をみる問題、政治が行われた場所とその時代の出来事や文化遺産を関連付けて考え判断する力をみる問題の正答率は、すべて75%を上回っている。他方、文化財を時代の特色と結び付けたり年代順に並べたりして理解しているかをみる問題や、戦国時代のヨーロッパ人の来航にかかわる課題を解決するために必要な資料を選択し、それを使って適切に説明する力をみる問題の正答率は60%を下回っており、文化財と時代の特色を結び付けて考える力や、資料を使って自分の考えを説明する力が十分身に付いているとはいえない。

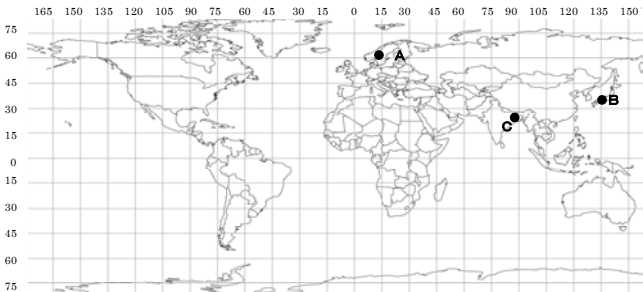
2 結果の分析

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

<問題> ①の1 ①の2 ①の3 ⑤の1

① 次の略地図を見て、1～3の問いに答えなさい。

略地図



1 日本は、世界の地域区分からみると、何州に属しているといえますか。ア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。

ア アジア州 イ オセアニア州
ウ 北アメリカ州 エ ヨーロッパ州

2 Aの緯度はおよそどれだけですか。ア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 南緯60度 イ 南緯15度
ウ 北緯60度 エ 北緯15度

3 Bは日本の明石で、Cはバングラデシュのダッカです。明石が午後6時の時、ダッカは午後何時になるか、その時刻を書きなさい。

<結果> ①の1 正答率 87.0% (正答・・・ア)
 ①の2 正答率 58.9% (正答・・・ウ)
 ①の3 正答率 52.9% (正答・・・3時)

<分析>

①の1の問題は、「世界を大まかにとらえるために必要な知識として、世界の州区分や日本の位置付けを理解をしているか」を問う問題である。このような基礎的な知識・理解を問う問題の正答率は昨年度に比べてさらに伸びており、安定した力を身に付けているといえる。その要因としては、世界の州区分にかかわる知識が、この領域での学習だけでなく、その後の学習においても繰り返し使われるからであることが挙げられる。しかし、同じ知識・理解についてみる問題でも、①の2の問題のように、地球上の位置関係を表すために必要な緯度や経度について問う問題や、①の3の問題のように、時差ができる基本的な仕組みについての理解を問う問題について等、いわゆる読図にかかわる知識・理解については課題が残る。このため、授業においては、地球儀や世界地図を活用し、作業的な学習の充実を図り、生活舞台としての地球を大観させ、地球的規模での位置関係をとらえる基礎的な技能や知識を確実に身に付けさせる必要がある。

1 ① は、すいこてんのう 推古天皇の せつしょう 摂政となり、そがのうまこ 蘇我馬子と協力しながら、中国や朝鮮に学んで、天皇を中心とする政治制度を整えようとしていました。この人物名を、ア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。

ア しょうとくたいし 聖徳太子 イ すがわらのみちざね 菅原道真 ウ おののいもこ 小野妹子 エ なかのおおえのおうじ 中大兄皇子

<結果> 5 の 1 正答率 84.2% (正答・・・ア)

<分析>

5 の 1 については、「6世紀ごろ、天皇を中心とする政治制度を築くために、働いた人物を理解しているか」を問う問題である。歴史上の人物名を問う問題であり、昨年度と類似の出題でみると正答率は昨年度をやや上回っており、安定した力を身に付けているといえる。これは小学校での人物を中心とした歴史学習を基盤として、中学校でも人物を取り上げながら歴史の流れを理解する授業の充実が図られつつあることを示している。歴史の授業では年表を必ず用意する等、時代の大きな流れを理解できるように、学習環境等の整備にも努めたい。

(2) 「資料活用・表現」の力をみる問題の例

<問題> 3 の 1 3 の 2

3 下の地形図を見て、1～4の問いに答えなさい。(地形図省略)

1 地図中には、土地の高さを表すための等高線が10mおきに引かれています。A地点よりもB地点は約何m高いですか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 約10m イ 約30m ウ 約50m エ 約70m

2 地図上のC地点からD地点までは直線距離で、およそどれくらいですか。地形図中の縮尺を参考にして適切な長さをア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 約 500m イ 約 1000m ウ 約 1500m エ 約 2000m

<結果> 3 の 1 正答率 65.7% (正答・・・イ)

3 の 2 正答率 62.5% (正答・・・イ)

<分析>

この問題は、「地形図上の2つの地点の高低差を等高線を用いて求めることができるかどうか」を問う問題と、「縮尺の意味を理解し、地形図上の直線距離から実際の距離を求めることができるかどうか」を問う問題である。誤答を見てみると、3 の 1 については、どれも同じような割合で誤答があることから、等高線自体の意味や地形図上での読み取り方に課題があると考えられる。また、3 の 2 については、「ア 約 500m」が多いことから、縮尺自体の意味やその使い方についての理解を図る必要があると考えられる。これらのことから、授業においては、身近な地域における観察や調査の活動において、縮尺の大きな地図に親しませるとともに、特に土地の高低や距離等の基本的な読図に関する技能を高める指導の一層の充実が求められる。

(3) 「資料活用・表現」及び「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> 7

7 花子さんたちの班が、16世紀の日本のようすについて調べて、発表したとき、「ヨーロッパ人の来航は、日本にどのような影響をもたらしたのですか?」という質問を受けました。次のア、イの資料のうち、どちらかの資料を使って、この質問に答えるとしたら、どちらの資料を使い、どのようなことを説明しますか。使う資料を一つ選び、その符号と説明する内容を書きなさい。

ア (写真省略)

長篠合戦図屏風

イ (写真省略)

南蛮人渡来図屏風

<結果> ⑦ 正答率 56.1%

<分析>

この問題は、「ヨーロッパ人の来航にかかわる課題を解決するために必要な資料を選択し、それを使って適切に説明することができるかどうか」を問う問題である。昨年度と同一問題であり、昨年度の正答率が57.9%であることからほぼ同様の結果であった。誤答としては、資料から読み取れることのみで記述が終わっていたり、ペリーの来航やオランダからの医術の伝来について書かれていたりするもの等があることから、資料から読み取れることと歴史上の出来事を関連させて説明することが十分にはできていなかったり、資料を時代の大きな流れの中での的確にとらえていなかったりすることと考えられる。また、無解答が10%以上みられた。授業においては、自分の考えを資料を基にしてまとめる学習や、仲間との交流で考えを深めていく問題解決的な学習により、調べて考えたことを表現する力を育てる指導の一層の充実が望まれる。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

基本的な事項・事柄を厳選して指導内容を構成することを大切にし、細かな事象を網羅的に羅列して知識の伝達に偏った指導計画になっていないかの見直しを図る。

- ・地理的分野、歴史的分野ともに、基礎的・基本的な知識の定着については、それをさらに生きて働く力として身に付けることができるように、指導計画の改善を図っていくことが必要である。生徒にとって最も身近な地域教材の開発を行うことや、例えば、室町時代の文化についての知識を身に付けるときに、小学校での歴史学習との関連を踏まえ、生徒の生活との結び付きを踏まえて指導すること等が考えられる。
- ・生徒にとって学ぶ必然が自覚できるように、1時間ごとのねらいを明確にし、単元を構造化して授業の結び付きを図る工夫する。

(2) 指導方法の工夫改善

昨年度と同様、「資料活用の技能・表現」及び「思考・判断」の力を十分に身に付けさせていく必要がある。

- ・評価規準を活用して、一人一人の学習状況を的確に把握することに努め、どの生徒にも資料に基づいて多面的・多角的に考察する力や、考察した結果を適切に表現する力が身に付くように、ノート指導の充実を図ったりする等、個の学習状況に応じたきめ細かな指導を工夫することが大切である。
- ・地理的分野の内容「(1)のア 世界の地域構成」では地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、時差等を取り上げ、位置関係をとらえる基本的な読図の技能を確実に身に付けさせる必要がある。歴史的分野では、学習課題を一層工夫する等、歴史に対する生徒の興味・関心を高めることや、学習している時代の大きな流れを確実にとらえるための年表の積極的な活用に努める必要がある。その際、社会的なものの見方や考え方を育てることと、学び方を学ぶ学習とが一体となって行われるよう留意したい。
- ・問題解決的な学習の充実を一層進める中で、自らの考えを記述してまとめることや、根拠となる資料をはっきりさせて考えをまとめること等、キーワードを例示したり、関連付けてまとめたりする等の繰り返し指導で、「表現力」を身に付けさせることに努めたい。
- ・授業改善については、県の「学力向上プロジェクト」における各事例も参考にしたい。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・学習環境の工夫については、図書館資料の整備と活用はもちろんのこと、授業で活用した資料等は、その単元を学習している間は教室に掲示する等して、日常的に自ら学べる環境を整えたり、地図や年表については、社会科の授業以外でも効果的に活用する等、生徒がいつでも活用できるような工夫を図りたい。
- ・学習集団の育成については、仲間との交流により自分の見方や考え方が深まる指導を大切にし、仲間のどの意見から考えが深まっていったのか、資料のどの事実をもとに考えたのか等の根拠を明らかにした発言等を価値付ける等して、仲間とともに学ぶことのよさを実感させたい。その際、「聞く」「話す」ことの基本的なことについては、生徒の実態等に即して全校体制のもと指導できるようにすることが大切である。